

2017年1月6日受信②

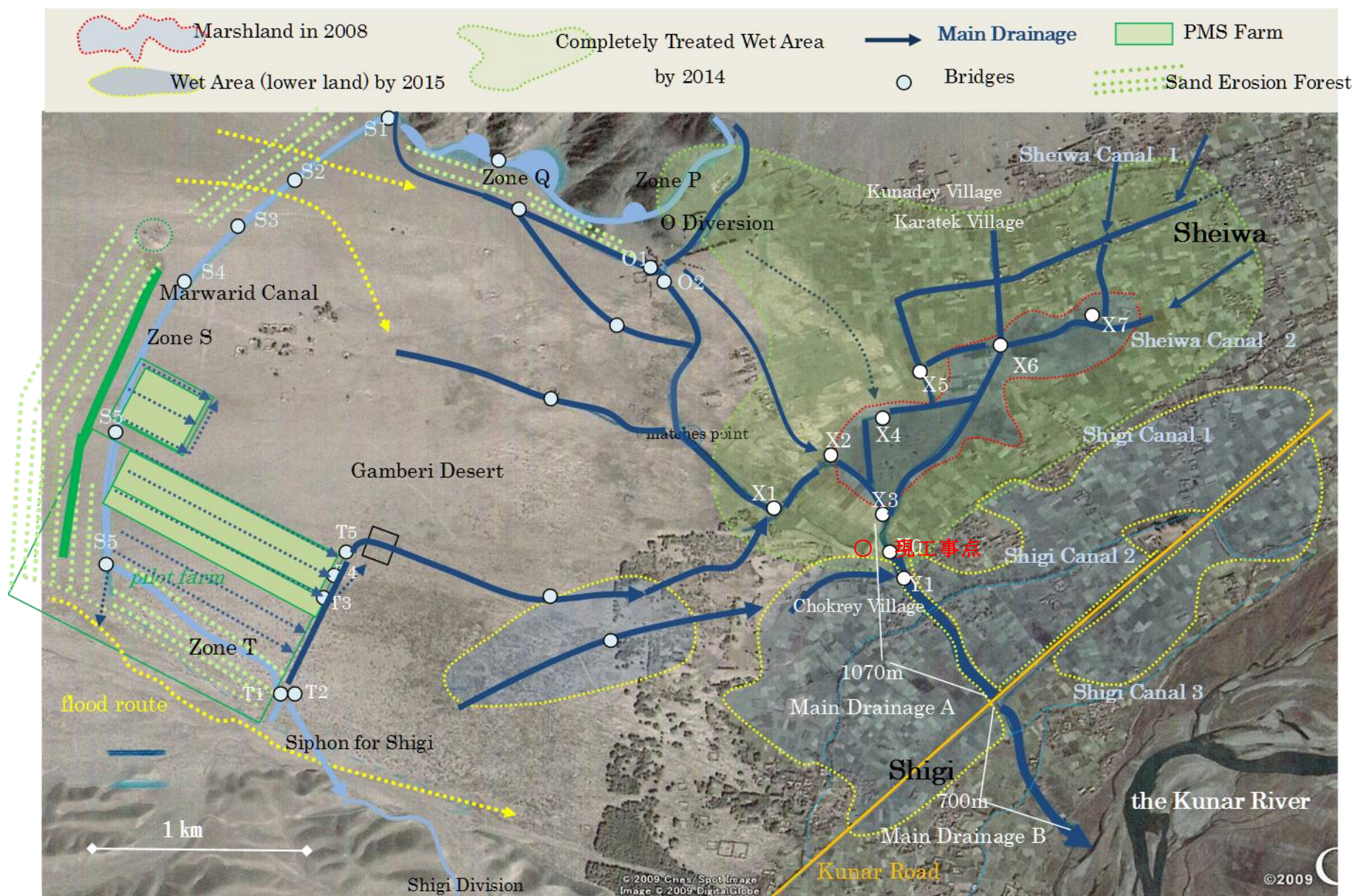
やっと用水路らしくなってきた。今回の取水門は、カチャラ村への送水路へ直接分水する。1月2日、試験的に土嚢を積み上げて、送水を試みた。旧取水口は岩盤に沿った頑丈なものだが、年々膨大な土砂で埋めつぶされていた。2017年1月2日



水量は十二分で、途切れがちだった冬の水量は完全に確保されている。旧取水口は洪水の流入路となるので閉塞する。カチャラ村民は旧水路取水口がそのままにされると勘違いしていたらしい。代表が挨拶にきて感謝した。現金なもので、俄然、こぞって協力的となった。位置的に、堰の恩恵がカチャラ村に及ばないと思い込んでいたのだ。村民は温和だが、こと水の話になると目つきが変わる。2017年1月2日



(recovered wetland=c.a.660 ha, total uncultivated land of Gamberi Desert=c.a.760 ha, in March, 2016)



排水路約 1400m地点。2011 年の工事から 6 年、更に水位は 2m 以上上がり、念願の目標地点に迫る。籠は我々が設置したもの。2017 年 1 月 2 日



完成した 1230m地点（A区 530m地点）のシギ水道橋。2017 年 1 月 2 日



架橋中のX0橋。1400m地点。(動画あり) (A区 700m地点) 2017年1月2日



A 区 530m地点から同 700m地点までが最も困難な区間であったが、村民の協力で切り抜けつつある。村落が盛り上がった地形で、家屋が密集して交通路がなかった。帰還難民も多く、人海戦術。2017 年 1 月 2 日



難民、遊牧民が群れて雑然とした中、仕事は進められる。警備兵はもとPMSの作業員であった者も多く、貧困層に政治的背景は殆どない。このあたりが外国人や報道関係に伝わりにくい。敵味方は地縁。血縁に吸収されて、ここでは意味がないのだ。2017年1月2日

